

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年10月15日
枚方市立菅原小学校

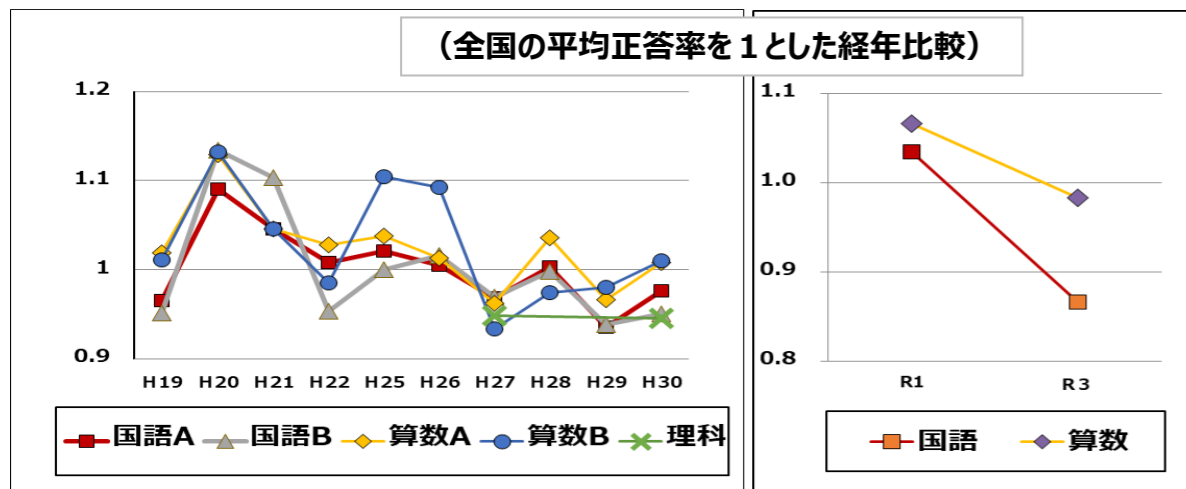
文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。
(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)



<学力調査結果の概要>

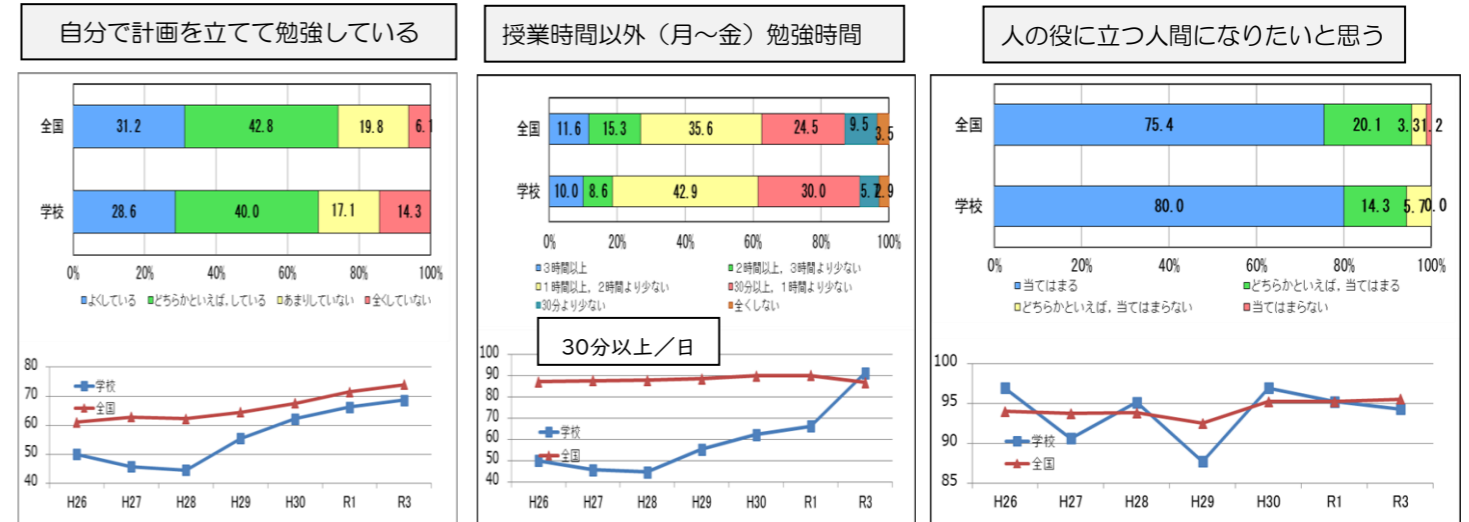
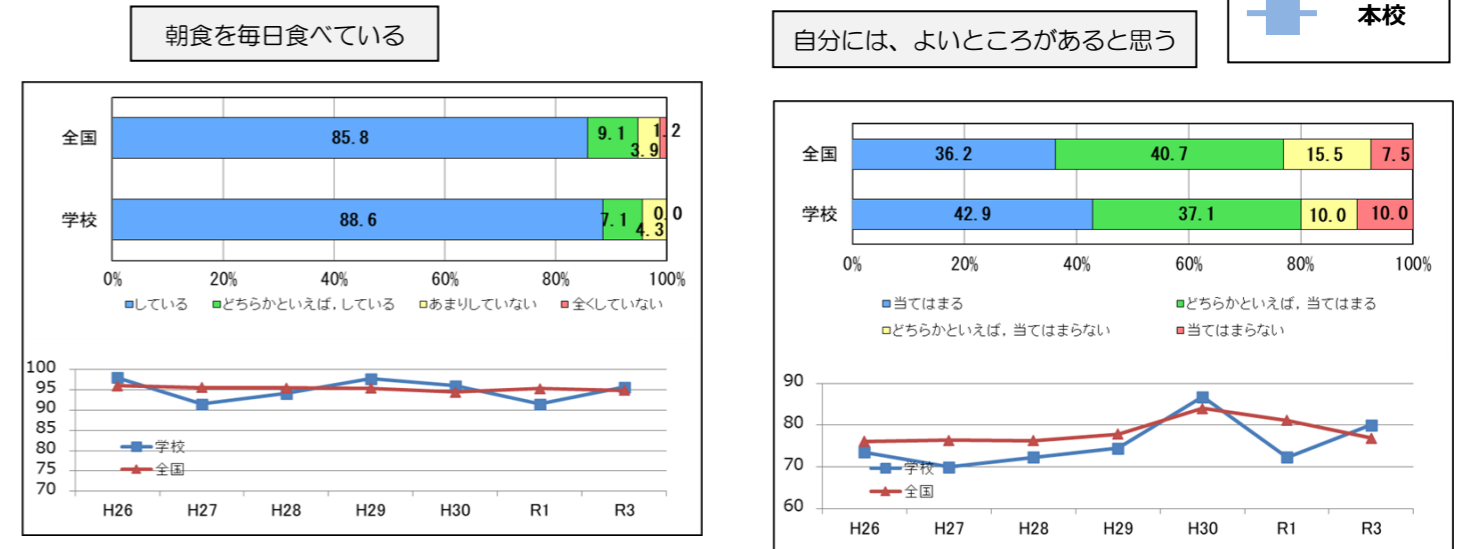
- 国語について
→ 平均正答率は、対全国比マイナス0.13となりました。
- 算数について
→ 平均正答率は、対全国比マイナス0.02となりました。

※本調査は、平成19年度から実施されています。
※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



<質問紙調査結果の概要>

- ・多くの児童は、毎日、一日の始まりのスタートとして朝食を食べています。
- ・自分にはよいところがあると思う自己の肯定感については、全国平均を上回っています。
- ・家庭学習を計画的にできる主体的な姿勢が年々増加し、その主体的な姿勢の一つの現れとして、計画的な30分以上の家庭での学習の取組も確実に増加しています。
- ・人の役に立つ人間になりたいという思いは、全国平均と同程度で多くの児童が抱えています。

まとめ

朝ごはんの摂取は、健康的、規則的に過ごすための基本であり、基本的な生活習慣の定着にも繋がっていると思われます。「自分で計画を立てて勉強する」「家庭で勉強する」など、児童自身の基本的な生活習慣の確立や主体的な行動、そして「自分にはよいところがあると思う」というような内面的な自己肯定感が育まれていることは今後の生活や行動に大きく影響してくると思われます。このことが今後「人の役に立つ人間になりたい」「挑戦する態度」などのさらなる主体的、積極的な行動を育むための基盤となります。引き続き、保護者及び地域の皆様との連携を大切にし、学校における様々な機会に児童の前向きな気持ちや姿勢の醸成を図り、実際の行動へと移せる児童を育ていけるよう、教育活動を充実させていきたいと思っております。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

問題2のニ

面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する

ニ 相川さんが読んだ【資料】の『 』の文の「より」と同じ使い方のものはどれですか。最も適切なものをあとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

『そのため、一つ一つ取り外さなければならない
 ホックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。』

- 1 音楽会は九時より始まります。
- 2 雨天により試合は延期になりました。
- 3 会場へは正門よりお入りください。
- 4 今年の夏は去年の夏より暑いです。

正答：4

	正答率	無解答率
本校	89.7	0.0
全国	87.5	0.3

(考察)

日常、よく使われる語句「より」ですが、本校の児童が、ほぼ90%正答しているのは、『 』の文章内容を正しく理解し、その中の語句「より」の使い方を他の様々な「より」が使われている文章と比較する中で、その意味や使い方を正しく理解し、話や文章の中で適切に使うことができることの表れであると思われる。

【課題】

問題3の三(1)ウ

丸山さんの【文章の下書き】の中の 部ウを漢字を使って書き直す(つみ重ね)

三 丸山さんは、【文章の下書き】を読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 丸山さんは、習っている漢字がひらがなになっていた部ア、ウ、エを漢字に書き直すことにしました。

次の 部ウを漢字でていねいに書きましょう。

『また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方に つみ重ね られています。』

正答：積み

	正答率	無解答率
本校	27.9	42.6
全国	54.4	14.4

(考察)

学年別配当表に示されている漢字を文脈の中で正しく使う問題です。無回答が多くあった原因として、日常会話で物を「積み重ねる」ことを「上に置く」や「重ねる」と表現し、日頃、あまり使わずに済んでいることが考えられます。普段から、文章を書くときに既習の漢字や語句を正しく使うように意識することや日頃、使い慣れない語句についても既習の漢字の用いることを意識して学習することが大切だと思われる。

<算数>

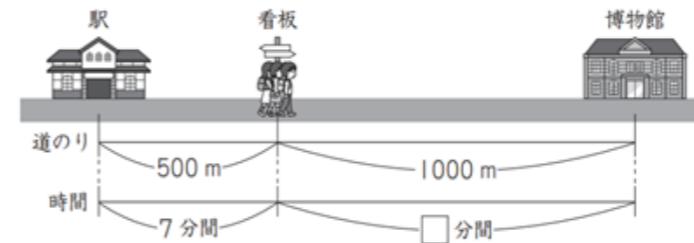
成果や課題があった設問

【成果】

問題1(2)

500mを歩くのに7分間かかることを基に1000mを歩くのにかかる時間を書く

(2) たけるさんたちは、駅から7分間歩いたところで、「博物館まで1000m」や「駅まで500m」と書いてある看板を見つけました。



500mを7分間で歩く速さで歩き続けると、1000mを歩くのに何分間かかりますか。

答えを書きましょう。 正答：14分間

	正答率	無解答率
本校	94.1	2.9
全国	86.7	1.7

(考察)

正答率の高さから、多くの児童が設問の文章内容から、500mを歩く速さと1000m歩く速さが同じであることを正しく理解できており、そのことを基に、距離と時間の関係についても確実に理解できていると考えられます。

今後も、児童が算数で学習している内容が日常生活の場面で生かされ、思考を深めることに繋がるような授業の指導内容、指導方法を創造していくことが重要であると考えています。

【課題】

問題2(1)

直角三角形の求める式と答えを書く

2 図1のような直角三角形があります。

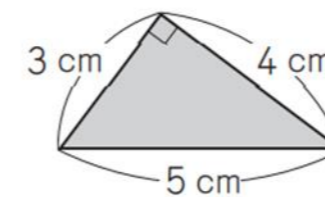


図1

(1) 図1の直角三角形の面積は何cm²ですか。求める式と答えを書きましょう

正答：6cm²

	正答率	無解答率
本校	44.1	2.9
全国	55.1	1.6

(考察)

正答率より、直角三角形の図から5cmを底辺と考え、面積を求めようとしたと考えられます。

直角三角形や三角形の面積の求め方「底辺×高さ(底辺に垂直に引く線の長さ)÷2」や定義を確実に理解し、使えるようになることが重要です。

基礎・基本の定着と発展的な思考にも繋げていけるよう、あらためて指導方法の工夫・改善を行っていききたいと思えます。

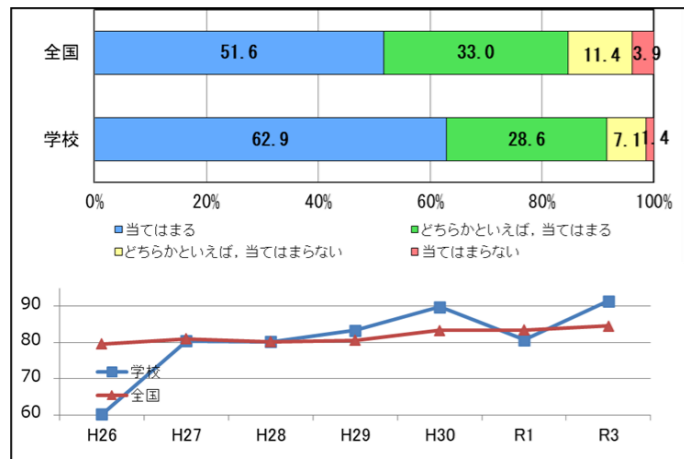
質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

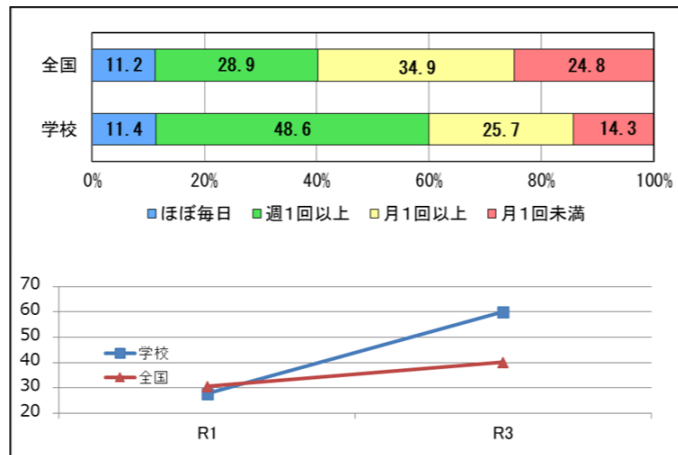


【成果のあった項目】

算数の授業の内容がよく分かる

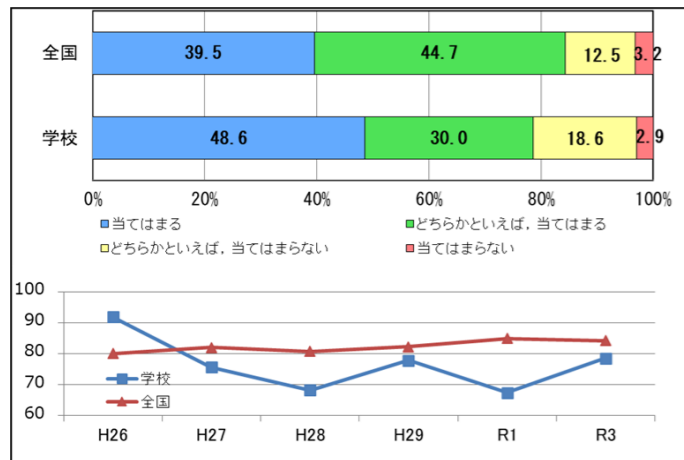


5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

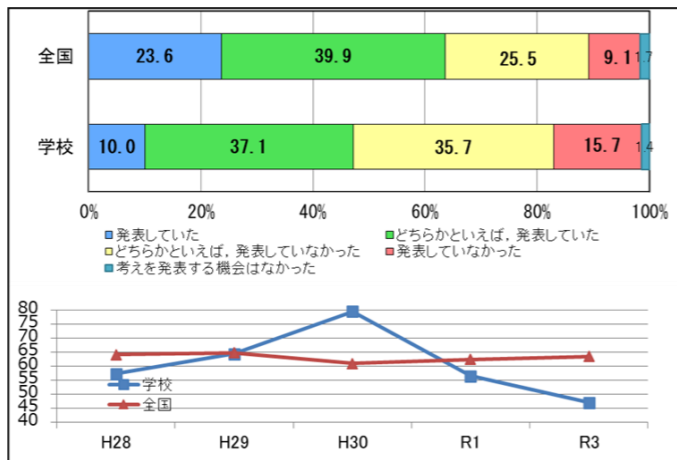


【課題が残った項目】

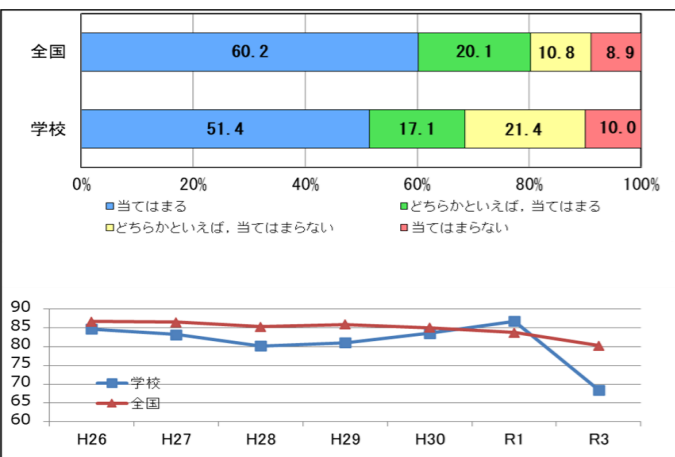
国語の授業の内容がよくわかる



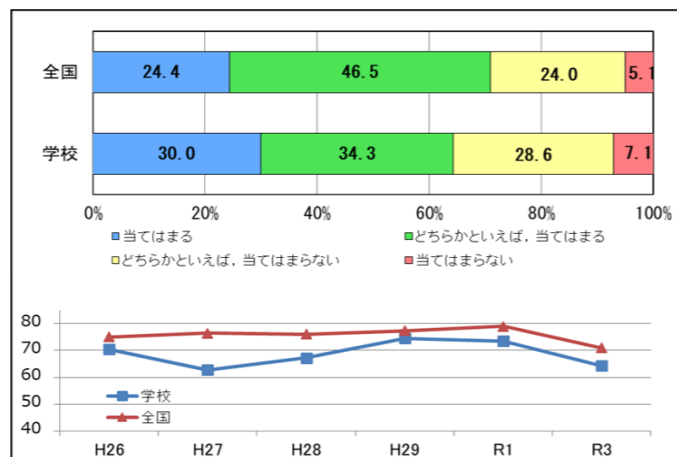
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。



将来の夢や目標を持っている



難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している



(考察)

◆成果のあった項目

- ・「算数の授業の内容がよく分かる」と肯定的な回答は、今年度も、算数の授業で習熟度別少人数を行い、個に応じた指導内容、指導方法等による丁寧な指導を積みかさねてきた結果であると思います。
- ・タブレット端末を始め、ICT機器を活用した学習活動については、教員の使用方法の工夫と共に、児童の使用スキルの向上が効率的、効果的な学習に繋がっていると思います。そのことにより、肯定的な回答が全国平均を上回っていると思います。

◆課題が残った項目

- ・「国語の授業内容はよくわかる」について、肯定的な回答が令和元年度より上昇していることについては、教員の授業での指導の工夫、児童の学習への意欲の上昇が伺えます。しかし、国語の正答率では、全国比マイナス0.13となっており、項目別の内容の理解度を確認し、分析及び改善に生かす必要があります。
- ・コロナ感染防止対策の状況の中、グループでの話し合いや発表する場が減少する中で、児童の主体的、対話的、深い学びや表現力、発信力をいかに醸成していくかについては、今後も引き続き、検討し、指導内容及び指導方法に生かす必要があります。
- ・「将来の夢や目標を持っている」について、肯定的な回答の減少について、現在のコロナ感染防止のための様々な活動が縮小及び制限されている中で、従来の様々な体験活動を行えないことも起因していると考えます。ただし、本状況の中でも学校として出来る限りの活動を取り入れ、児童にとっての将来に生かすことが出来る体験や学習に取り組んでいくと共に児童の将来に向けた心の醸成を行っていききたいと思います。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」子どもの育成は、将来において必要とされる資質であります。学校教育活動における様々な体験活動の中で、心を動かされるような体験を通して「チャレンジすることは楽しい」という気持ちを醸成する必要があります。多少の困難があっても、その先の希望や感動を求めて積極的に取り組んで行けるよう取り組みを計画することが大切だと思います。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

- ・毎時間の「身に付けさせたい力」を踏まえ、児童の学習内容を焦点化し、個々の児童に対して毎時間の授業での内容が分かりやすい「めあて」を示します。
- ・学習の「ふりかえり4つのポイント」「わ・が・と・も」「わ:わかったこと が:がんばったこと と:友だちの意見で気づいたこと も:もっとやってみたいこと」を丁寧に行い、学習意欲及び理解度の向上をめざしていきます。
- ・タブレット端末を始め、ICT機器を活用した学習活動については、これまで以上に教員の使用方法の工夫と共に、児童の関心・意欲を高めることができるよう努めます。
- ・教員間の授業交流の効果的な実施及び充実に努め、授業力の向上に生かします。

(2) 学習の基本的な姿勢の定着について

- ・授業の開始時には、学習の準備が整っている状態で授業に臨み、チャイムで始まる授業を徹底します。
- ・「声のものさし」や聞く姿勢としての「グー、ペタ、ピン」を徹底し、授業中の集中度を高めます。

(3) 家庭学習について

- ・児童が家庭での学習(宿題)を確実に行うよう、算数の計算ドリル、国語の漢字ドリル、タブレットを用いる宿題、及び自主学習ノート(3年生以上)など、今後も引き続き、児童へ丁寧に働きかけていきます。

(4) 体験活動等の実施や外部講師等活用について

- ・可能な範囲で、児童にとっての将来の夢や目標に繋がるような、また意識できるような体験や学習に取り組んでいくと共に児童の将来に向けた意欲の醸成に繋がっていききたいと思います。
 - ・外部の様々な人材を活用し、授業で学習することが将来に生かすことができる知識やクリエイティブな考え方の醸成につながるよう取り組んでいきたいと思っています。
- 最後に、子どもたちの将来に向けて、今後も全教職員で力を合わせ、より良い教育活動の推進に努めてまいります。保護者の皆様、引き続き、ご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。